

平成29年度

# 教育基本方針

学校法人 中央工学校

中央工学校 O S A K A

## 1 校是・校訓

### (1) 校是

○ 一人の天才よりも千人の健全な技術者

### (2) 校訓

○ 正しく

○ 速く

○ 美しく

## 2 本年度の学校法人中央工学校の運営指針

- 1 「厳しい実務教育」「人間涵養教育」の推進
- 2 経営安定のための学生の確保
- 3 将来を見据えた校舎・施設の整備

## 3 本年度の基本方針

本年度の基本方針は、次のとおりとする。

- ①安定した入学者の確保
- ②特色ある建築・インテリア・CG教育の促進
- ③業務の担当領域の明確化と組織的かつ合理的な遂行
- ④高い資格取得率と就職率の維持
- ⑤日本語能力や卒業後の進路に応じた教育の展開

## 4 本年度の留意事項

### (1) 学校運営

#### (ア) 学校経営の健全化の促進

##### (a) 学生数の増加策の検討

オープンキャンパス参加者及び内部進学者の特典等の周知徹底のほか、AO入試のエントリーの早期促進、AO合格内定者の指定校推薦への変更、12月までのエントリー期間の延長を訴求し、入学者の早期獲得・増加につながるようにする。

##### (b) 休学・退学防止策の検討

学習意欲の低下のサインを早期に把握するため、個人面談（前・後期各1回）のほか、日ごろから学生との対話をきめ細かく行う。

また、保護者と連携を密にし、各学期の出席率が95%以上となるようにする。

このほか、学習意欲や理解度を高めるため、課題数や内容等の見直しをはじめ、校外学習や課外授業（1年後期水曜午後）等を行う。

#### (c) 留学生の確保の強化

留学生センターと連携を図り、留学生の動向をきめ細かく把握し、漢字圏の中国・台湾、準漢字圏の韓国・ベトナム、非漢字圏のネパール・モンゴル・フィリピン・ロシア等の国の募集活動を活発に行い、留学生の確保に努める。

#### (d) 内部進学者の増加の促進

進路選択の一つとして、建築系の学科においては研究科、日本語科においては建築系の学科への内部進学についての情報を適切に提供する。

また、時期を逸することなく進学ガイダンスを開催し、内部進学者を増加させる。

#### (e) 合理的な広報活動の方策の確立

オープンキャンパス（学校説明会）等の広報イベントのほか、高校訪問や会場・校内ガイダンスの参加等についてきめ細かく精査・点検し、効果的な広報活動を行う。

### (イ) 特色ある学校づくりの推進

#### (a) 環境教育の促進

社会においては、省エネやサステイナブル（持続可能）建築への対応が強く求められている。

このため、資格対策授業に eco 検定（東京商工会議所主催）受験科目を導入のほか、卒業制作や設計課題にバイオクライマティックデザイン等の環境に係わるテーマを積極的に取り上げる。

また、既存の太陽光発電設備や電気料金削減システム等を教材として活用する。

#### (b) BIM教育の推進

BIMソフトの基本操作を習得させるとともに、BIMによる設計課題を多く取り上げ、BIMに係わる即戦力となる人材を育成する。

#### (c) 資格取得の推進

合格率の低い資格対策関係の授業の改善し、すべての学生が在学中に最低2以上の資格を取得するように指導する。

#### (d) 人間涵養教育の推進

人間涵養教育の一環として、茶道や華道、書道の体験研修を実施するとともに、

日本文化の理解を一層図るための新たな研修について検討する。

(e) 新学科・コースの開発

既存学科の見直しや新学科・コースの開発を積極的に行い、特色ある教育の推進する。

(f) 施設・設備の充実化

老朽化あるいは劣化の著しい施設の改修、及び設備の整備・充実化を適切に進める。

**(ウ) 業務の効率の向上**

(a) 職員数に応じた業務体系の確立

職員の増員に見合った業務体系を確立し、業務の合理化や勤務時間を改善する。

(b) 業務内容の点検・見直しの促進

業務内容の点検・見直しをきめ細かく行い、業務の効率化と平準化を進める。

(c) 効率的な業務の方策の検討

業務の見直しや文書の簡素化、時間の有効利用等を踏まえ、効率的な業務の進め方を検討する。

(d) 職員間の相互扶助の促進

職員間の一体感を高め、相互扶助の精神で業務にあたる。

**(エ) 職場環境の改善**

(a) 挨拶の励行

職員間のもとより、来客等への挨拶を励行し、明るい学校及び職場づくりに心掛ける。

(b) マナーの向上

職員としての服装や装身具、職員証の着装、言葉遣い等に注意し、学生・留学生の手本となるよう、  
教職員のマナーの向上に努める。

(c) 校内美化と整理・整頓の推進

ポスター等を適切な掲示や物品等の整理・整頓に心掛け、良質な学習環境を維持する。

(d) 作品等の掲示・展示方法の改善

学生・留学生の作品の展示をはじめ、季節感のあるものの掲示等の充実させ、  
建築系及び日本語科の学校らしさや心和ませる雰囲気醸成する。

**(オ) 附帯教育事業の充実化**

(a) 新規プログラムの研究・開発

地域や社会の課題、産業界、関係団体等のニーズを適切に把握し、新たな生涯教育を研究・開発する。

(b) 公共機関等の委託訓練の受託の開拓

公共機関等の委託訓練を施設・設備、及び講師の調整が可能な限り受託する。

(c) 産学連携プログラムの開発

求人やインターンシップを通じて企業等から積極的に産学連携に係わる情報を収集し、ニーズの高い魅力あるプログラム等を開発する。

(d) 中央工学校（生涯学習室）等との連携強化

委託訓練の受託条件の厳しさが増していることから、中央工学校（生涯学習室）と連携し、新しい講座を開拓する。

(e) 外部機関等への教室の貸し出しの促進

日程や収容人数等が可能な限り、各種講習会や各種試験等への教室の貸し出しを積極的に行う。

**(カ) (学) 中央工学校 O S A K A 一級建築士事務所の再開設**

(a) 建築系の学生に対し、当一級建築士事務所の実務と結び付いた授業やクラブ活動等をとおして、建築士制度について理解を深めさせるとともに、建築物を創り出す喜びを体験させ、建築業に多くの有為な人材と送り出す。

(b) 職員に対し、非常勤講師との連携による当一級建築士事務所での建築物の設計及び設計監理をとおして、一級建築士試験の受験資格を得る場となるようにする。

**(キ) AO入試 (Admissions office [アドミッション オフィス] の略) の推進**

(a) AO入試のパンフレットの早期作成・配付

AO入試による入学者が増加していることを踏まえ、パンフレットを早期に作成・配付し、資料請求者及び高校に情報提供を迅速に行う。

(b) AO入試説明会の早期開催

AO入試説明会を1月、オープンキャンパスを4月から開催し、高校生及び保護者等に対してAO入試を早期にPRする。

(c) AO入試の特典のPRの強化

高校生及び保護者に対して、AO入試による入学金（昼間11万円、夜間8.5万円）の免除の特典について周知し、入学者を増加させる。

(d) 高校への迅速な情報提供

高校生の進路決定の早期化に対応するため、高校への情報提供を時期を逸する

ことなく、適切かつ速やかに行い、進路選択するための一つの資料として活用されるようにする。

#### **(ク) 非常勤講師との連携の促進**

##### (a) 情報の共有化

学生・留学生の個々の出席状況や学習態度、進路希望等の情報を共有し、効果的な学習指導を行い、休・退学を防止する。

##### (b) 学校行事への参加の促進

緑地祭や卒業成果・制作発表会等について、企画段階から参加を求め、意見交換をとおして、非常勤講師の参加をより一層促進させる。

また、入学式及び卒業証書授与式の出席について、現下の状況を踏まえ、交通費実費支給で理解を求める。

##### (c) メーリングリストの活用

メーリングリスト（Mailing List：複数の人にメールを同時に配信できる仕組み）を学校行事の案内や、アイデア募集、一斉連絡等に活用し、非常勤講師との連携を深める。

##### (d) 定期的な意見交換会の開催

職員との意見交換会を定期的に行い、授業運営やインターンシップ、就職、広報活動等を改善する。

#### **(ケ) 職業実践専門課程に係わる取り組みの推進**

##### (a) 企業等と連携した実習・演習等の実施

従前からインターンシップのほか、企業等と連携したプロジェクトやプログラムを実施しているが、職業実践専門課程の規定に準じた実習や演習に改善し、専門性の充実化及び高度化等を進める。

##### (b) 企業等と連携した職員研修の実施

職員の指導力の向上させるため、講演会やワークショップ等を含めた職員研修を年1回開催してきたが、関係専門分野の企業等と連携した組織的な研修を推進し、職員に高度な専門的知識・技術を習得させる。

##### (c) 教育課程編成委員会等の意見の活用

教育課程編成委員会における意見・提案等を踏まえ、新しい科目の開設や教育課程の編成等を行い、社会のニーズに即した人材を育成する。

##### (d) 学校関係者評価書の作成・公表

学校関係者評価は、あらかじめ職員が作成した学校自己評価に基づいて定期的に行

われるが、問題点や課題等を明確にし、カリキュラムや指導体制等を改善する。

また、これらの内容をホームページ等に公表し、学校の理解を一層得られるようにする。

## **(コ) 日本語教育の充実化**

### **(a) 入学者数の安定的確保**

定員150名の認可を踏まえ、今後は、目的意識及び経費支弁状況が明確で、質の高い留学生を確保する。

### **(b) 在留資格認定証明書（入国許可）交付率100%の達成**

不法残留者を多数発生させている国（中国・ミャンマー・バングラデシュ・モンゴル・ベトナム・スリランカ・ネパール）等における最終学歴の卒業証明書（写し）や経費支弁書、資金を立証する資料（預金残高証明書〔原本〕等）の点検能力を高め、在留資格認定証明書交付率100%を達成させる。

### **(c) 新しい国・地域からの募集の強化**

政治的な問題の影響を受けやすい中国・韓国以外の台湾をはじめ、ベトナム・ネパール・モンゴル・フィリピン・ロシア等の新しい国の留学生の募集活動を積極的に行う。

### **(d) 工業専門課程の学生との交流の促進**

日本語科の学生が2号館で学んでいることを踏まえ、学生ラウンジや図書室等における建築系の学生との交流の拡大化に一層配慮する。

## **(2) 学習指導**

### **(ア) 重点事項**

#### **(a) 学校行事及び研修内容の見直し**

緑地祭における模擬店やイベントの規模、学生・留学生の参加方法、本校の設置学科を反映させた発表・展示の充実、非常勤講師の参加促進、地域への開放等を目標にして、内容の見直しを行う。

また、卒業成果・制作発表会の学生数増加に伴うプログラムの改善のほか、内容の充実化のための卒業作品のレベルアップ、非常勤講師・企業・高校等外部からの参加促進、優秀なプレゼンテーション・作品の顕彰等について検討する。

このほか、軽井沢合宿研修や海外研修旅行等の内容について、問題点・課題を精査・点検し、内容を改善・充実させる。

#### **(b) 学生ラウンジの活用**

学生ラウンジを学生や職員の食事のほか、学生間及び学生・職員・非常勤講師

間の交流、クラブ活動、セミナー、作品展示、地域開放の場等としての活用を一層進める。

(c) 中央工学校グループ校との連携の強化

建築系においては、中央工学校と緑地祭や国内建築研修等をとおして継続的な交流を促進する。

また、共催している「高校生対象コンペティション」について、西日本工高建築連盟等の関係団体や高校へPRを積極的に行い、応募校・応募点数を増加させ、本校の知名を高める。

日本語科においては、中央工学校附属日本語学校や中央工学校国際情報系の職員と留学生の受け入れ方策や教育方法等について定期的に意見交換を行い、日本語教育を進展させる。

(d) 日本の伝統文化の体験の促進

本校及び隣接する服部緑地の日本民家集落博物館の茶室等を利用して、茶道・華道・書道等を計画的に体験させ、日本の伝統文化の理解の深めさせる。

(e) 教育成果の外部への発信の推進

ホームページや学校アプリ等の各種広報媒体を通じ、授業をはじめ、コンペの成果、学校行事・クラブ活動の様子等、日頃の教育成果を積極的に外部に発信し、本校の教育の取り組み内容について、一層理解を得られるようにする。

## (イ) 建築系

(a) 目標

◇小さな学校で大きな教育成果の達成

(b) 基本方針

(i) 少人数授業の推進

(ii) きめ細かな学生指導の徹底

(iii) 新しい教育内容・方法の積極的な導入

(iv) すべての職員によるすべての学生に対する学習・生活指導の促進

(v) ストロングポイントの訴求の強化

(c) 具体的方策

(i) 教育の活性化

① BIM教育の推進及び環境教育の推進

② コンペ入賞率の向上（コンペクラブの充実等）

③ 企業連携の促進（長期インターンシップ・企業研修等）



- ④自由度の高い授業の展開（選択科目の増加等）
- ⑤資格対策授業の見直しと合格率・資格取得率の向上
- ⑥授業力を高める教育研修・勉強会の実施
- ⑦コース制の見直し
- ⑧新学科設置の検討

## （ii）各学科の特色の鮮明化

### ■昼間

#### ◇研究科

二級建築士・木造建築士試験の合格率の向上のほか、後期の学習内容を充実させる。

#### ◇建築学科

B I Mや環境教育を充実化させ、建築・管工事施工技術者の資格取得を奨励する。

#### ◇住宅デザイン科

B I Mやスマートハウス、ユニバーサルデザイン教育を充実する。

#### ◇インテリアデザイン科

ショップデザインや家具、照明教育を強化し、インテリアデザイナーとしての資質を向上させる。

#### ◇建築CGデザイン科

B I Mデータの活用やCG教育を充実させる。

### ■夜間

#### ◇建築学科（夜間部）

二級建築士の資格取得率を高める。

## （iii）授業の活性化

学生の積極的な授業参加を促すため、教科の特性を踏まえ、アクティブラーニングを導入し、問題解決型の授業を展開する。

また、演習科目においては、授業での直接指導を原則とし、課題数・内容の見直しを行い、一つひとつの課題を確実に取り組ませる。

## （iv）教育設備の充実化

B I M関連ソフトを整備し、B I Mを活用した魅力ある授業を展開するとともに、コンペ等に積極的に応募させる。

また、教育環境を向上させるため、1号館31・32教室のAVシステム更

新等を更新する。

(v) 地域活動の強化

日本民家集落博物館（服部緑地）・地元自治会等と連携を深め、地元の要望を踏まえた、建築系の専門学校にふさわしい地域貢献のあり方について検討する。

(vi) 国際交流の活発化

企業の海外進出が一般的な時代になり、海外での就職や留学を希望する学生が少なくない。

一方、中国や台湾のほか、ベトナムやネパールの留学生が増加傾向にある。

このような国際化の時代に対応するため、海外研修旅行を利用した海外の建築系学科設置の学校訪問・学生交流等を通じて、国際交流を活発化させる。

(vii) 社会貢献の促進

ドイツ国際平和村への募金活動を継続して行うとともに、学生のボランティア活動への参加を促す。

**(ウ) 日本語科**

(a) 目標

◇良質な日本語教育の実践

(b) 基本方針

(i) 職員及び非常勤講師の確保

定員が100名から150名になったため、職員及び非常勤講師の確保に遺漏のないようにする。

(ii) 日本語能力に即した授業の推進

入学時のプレイスメントテストの結果を踏まえ、少人数の能力別クラスを編成し、留学生個々の能力に即したきめ細やかな授業を行う。

また、職員に対し、質の高い授業を展開できるようにするため、事前に教材等を点検し、きめ細かく指導する。

(iii) 卒業後の進路に合わせた学習指導の徹底

定期的に留学生の進路希望調査を行い、変更が生じた場合は速やかに留学生が希望するクラスへ移動させ、ニーズに合わせた授業を受けられるようにする。

また、進路が決定したならば、パソコンを使用した文書作成(研究計画書・レポート等)やパワーポイントによる資料作成をとおして、卒業後に役立つスキルを身に付けさせる。

(iv) 1日6時間の効果的な授業の推進

1日6時間の授業のメリットを生かしたカリキュラムを作成し、準漢字圏及び非漢字圏の留学生が、早期に漢字圏の留学生とともに授業を受けられるようにする。

(v) すべての職員によるすべての留学生に対する学習・生活指導の促進

日頃から一人ひとりの留学生の行動に注意し、出席率が常に95%以上維持させるとともに、学習態度等に変化が見られた時は、職員全員が情報を共有し、指導する。

(vi) 日本人学生との交流の促進

建築系のクラブ活動に留学生を積極的に参加させ、日本人学生との交流を促進する。

(vii) 日本文化体験活動の促進

日本文化について、課外活動等のさまざまな機会を利用して体験させる。

(c) 具体的方策

(i) 授業内容の改善

- ①大学進学希望者に対する日本留学試験対策授業（英語・数学・理科・総合科目等）の強化、及び日本語の読解力・聴解力・聴読解力の向上を推進し、一人ひとりの留学生の能力を伸長させる。
- ②大学院・専門学校進学希望者に対する日本語能力試験対策授業を強化し、日本語能力試験1級（N1）・2級（N2）の合格率を高める。
- ③日本留学試験及び日本語能力試験の合格率の高めるため、8月に基礎科目の集中講義を実施する。
- ④非漢字圏の留学生に対する教科書・教材開発を含む効果的な授業を構築する。
- ⑤均質な授業を行うため、非常勤講師の技能向上及び管理の徹底させるとともに、勉強会等を定期的に開催する。

(ii) 教育設備の充実化

- ①学生情報管理システムを活用し、職員室と事務室の間における留学生の情報の共有化を進める。
- ②2号館の美装化を促進し、学習環境を改善する。
- ③パソコンを整備し、IT機器の充実化させる。

(iii) 多様な交流行事の設定・実施

①クラブ活動の実施の検討

日本文化の理解及び日本人学生との交流を促進させるため、書道・生け花・

絵手紙等の文化体験型のクラブ活動の早期実現化を検討する。

また、留学生が、建築系のクラブ活動に積極的に参加するように働き掛ける。

### ③生活指導（アルバイト・在留カード等）の徹底化

留学生がアルバイトをする場合には、事業所名・所在地・仕事内容・勤務時間・待遇等を聴取し、違法性の有無を確認するとともに、学校生活に影響のないように指導する。

また、在留カードを常に携帯させ、警察官等に補導を受けることのないようする。

## (3) 学生・留学生指導

### (ア) 個別指導

- (a) 厳正な態度と深い愛情を持って個々の学生・留学生とできる限り多く接し、悩みや問題点を持つ学生・留学生の早期発見に努め、休・退学を防止する。
- (b) 日頃から保護者と連携を密にし、きめ細かな個人指導を進める。
- (c) 教育懇談会等をとおして、家庭の実態を把握し、実情に応じた適切な指導・助言を行う。
- (d) 学生生活や留学生生活をとおして、規律ある生活態度や社会人として必要なマナーを身に付けさせる。

### (イ) 集団指導

- (a) 身近な挨拶・清掃の励行、時間の厳守等の指導をとおして、社会人としてふさわしい人格を形成させる。
- (b) さまざまな学校行事に積極的に参加させ、集団における指導性や協調性等を育成する。
- (c) 日常の諸活動をとおして、秩序ある集団生活を送る態度を養う。
- (d) ASHを有効に活用して有識者、卒業生等の講演会を開催し、人間の生き方・在り方の指針を与え、人生観・世界観の確立の一助となるようにする。

### (ウ) 交通安全教育

- (a) 通学途上における交通マナーを向上させ、交通事故を防止する。
- (b) 自己及び他者の生命の大切さを自覚させ、無謀な運転を防止する。

### (エ) 図書室の利用指導

- (a) 専門図書のほか、幅広い教養を身に付けるための一般図書を充実させる。
- (b) 学生・留学生の読書傾向を調査し、ニーズの高い図書を拡充する。
- (c) 学生・留学生が親しみやすく、学習しやすい場となるような雰囲気にする。

- (d) 読書だけでなく、情報の蓄積・発信・検索やDVD等の新しい情報源等が閲覧できるようにする。

#### (4) 進路指導の重点

##### (ア) 重点事項

雇用状況が好調であるが、キャリア教育の実践等をとおしてすべての学生・留学生が夢や希望を持ち、自己が求める企業に就職できるようにする。

また、学生・留学生の適性、興味・関心等を踏まえ、自らの職業観・勤労観を培い、社会人として必要な資質能力を形成していくことができるようにするため、経済産業省が職場や地域社会で暮らしていく必要な力として提唱している「社会人基礎力」、すなわち、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」を身に付けさせる。

##### (イ) 基本方針

###### (a) 目標

◇学生・留学生が自らの意志と責任で進路を選択する態度・能力の育成

###### (b) 基本方針

###### (i) 自己実現に向けた自主性の育成

各学科やクラス、教科等と連携を密にして、入学から卒業までを見とおした進路指導計画を立案するとともに、一人ひとりの学生が自らの考えや行動等に基づいて自己実現を果たす能力を育成する。

###### (ii) 計画的な進路指導の推進（学科担当との連携強化）

担任と連携し、学生・留学生の職業観・勤労観を育成するとともに、自己分析や企業研究をはじめ、履歴書の作成や面接・作文等の指導を計画的に行い、就職先を早期に決定できるようにする。

また、産学接続を踏まえたインターンシップを積極的に実施し、学生・留学生のニーズに合った受け入れ企業を拡充する。

###### (iii) 就職に繋がる効果的なインターンシップの促進

学生一人ひとりの希望や適性・能力に応じた企業等に就職できるようにするため、計画的かつ内容の充実したインターンシップの実施し、自己実現を果たせるようにする。

###### (iv) 研究科への内部進学への促進

進学ガイダンスや個人面談を計画的にきめ細かく行い、建築系の学科においては研究科、日本語科においては建築系の各学科への内部進学を促進する。

## (ウ) 具体的方策

### (a) 求人企業・求人数の確保

#### (i) 留学生を含む新規求人開拓の促進

進路希望調査をもとに、一人ひとりの学生・留学生の希望分野・職種等について適切に把握するとともに、関係の大手企業や優良企業に対する求人開拓を積極的に行う。

このほか、就職を希望する建築系及び日本語科の留学生が増加することを踏まえ、外国人の受け入れの企業の情報収集や求人開拓等を進める。

#### (ii) 関連団体との連携・産学共同プロジェクトの促進

進路指導の改善・向上のため、関係諸団体主催の研修会等に積極的に参加し、企業との関係を強化するとともに、外部団体が開催しているセミナーや講習会等に学生・留学生を積極的に参加させ、建築に係わる幅広い知識・技術を習得させる。

また、卒業生の就職先を対象とした産学協同プロジェクトへの参画等について検討するとともに、企業が求める能力（社会人基礎力）や人材等を把握し、進路指導の在り方を確立する。

このほか、魅力ある学校づくりに努め、求人数を増加させる。

#### (iii) インターネットを利用した就職支援サイト（マイナビ等）の活用

学生・留学生が、自ら積極的に企業研究や情報収集、求人応募エントリー等を行えるようにするため、インターネットを利用した就職支援サイト（マイナビ・キャリアス等）の活用について、ASH等をとおして指導する。

#### (iv) 校内企業説明会の開催

学生・留学生の職業観や勤労観の深化させるため、関係企業の人事担当者及び卒業生を招聘し、企業説明会を積極的に開催する。

### (b) 進路指導の充実化

#### (i) 就職指導サポートシステム（キャリアマップ「大専各」）の活用

(一社) 大阪府専修学校各種学校連合会が推進する

①大専各のスケールメリットを生かした新たな求人情報（新規・既卒）の提供

②既存求人票のデータ入力、データ更新の代行（専用WEBページ開設）

③就職活動の進捗状況の記録（応募、面接、内定承諾等）と担任との情報の共有

④卒業生・企業の人事担当者と情報／意見交換ができるメッセージボックス  
の提供

等を含めたキャリア教育・就職指導サポートシステム「キャリアマップ」を導入し、求人票の整理やデータ入力の手時間を短縮させ、学生・留学生へのキャリア教育・進路指導を強化する。

(ii) インターネットサービスによる情報提供の導入

スマートフォンやタブレット端末が普及し、多くの学生・留学生に活用されていることを踏まえ、求人や企業説明会の情報のPDF化を行うとともに、インターネットによる就職情報を提供する。

(iii) キャリアカウンセリング・スキルの向上

若年者のフリーターや離転職をはじめ、学生・留学生の卒業後の職業生活への移行支援が強く求められている。

このため、求人と求職の効果的なマッチングをはじめ、進路指導として培ってきたカウンセリング技法を生かすとともに、キャリアカウンセリングのスキルを身に付け、学生・留学生のキャリア形成や能力向上の指導を強化する。

(c) その他

(i) 校友会との連携の促進

校友会（同窓会）と連携し、卒業生の社会的貢献活動や離転職等の状況を的確に把握する。

(ii) 応募書類郵送費の徴収

学生・留学生から、学校求人に応募書類（履歴書・各種証明書等）の送付にあたっての経費として、郵送費（370円／円）を徴収する。

## 5 学級編成

課程	区別	学 科 名
工業専門課程	昼間	研究科
		建築学科
		住宅デザイン科
		インテリアデザイン科
		建築CGデザイン科
	夜間	建築学科（夜間部）
養 文 専 門 化 文 専 門 ・ 教 育 課 程	昼間	日本語科（進学2年コース）
		日本語科（進学1年6か月コース）

## 6 教務室分掌構成員

部 門	分 掌		構成員数
事務部門	総務・労務		6
	経理		5
	管財		4
教育部門	教育		10
	教務		11
	進路指導		5
	図書		5
	生涯学習		5
広報部門	企画	学校案内書	7
		媒体紙・HP管理	6
	広報	学校訪問 （日本語学校を除く）	11
		会場ガイダンス・ 校内ガイダンス等	11
		オープンキャンパス（学校説明会）・ イベント・資料請求・車両使用管理	6
		留学生募集・日本語学校訪問・附帯 教育	4
		出願	入学選考・特待生選考
	受付	窓口・電話対応	8